

2023年度第1回 開志専門職大学情報学部 教育課程連携協議会 議事録

1. 日 時 2023年9月7日(木) 14:00~16:00
2. 会 場 米山キャンパス 開志未来創造研究センター
3. 出席者 三上委員長、田代副委員長、中野委員、箕打委員
淡路学務課・社会連携推進課課長、宮本社会連携推進課員

欠席者 木田委員、黒田委員、原田委員、山田委員

4. 会次第

- 1) 開会の挨拶 三上委員長
- 2) 出席者挨拶(近況ご紹介)
三上委員長から委員名簿順に近況報告をおこなった
- 3) 前回議事録の確認
三上委員長より、委員全員に内容確認がおこなわれた

4) 情報学部について

(1) 令和5年度の学部運営について

事務局淡路より、資料3 教育課程などの概要に基づき情報学部の現在の教育課程について説明がされた

情報学部の卒業要件は130単位。カリキュラム体系については4つのコース(サイバーセキュリティコース64名、クラウドエンジニアコース18名、IOT・ロボティクスコース24名、AI・データサイエンスコース27名)が設定されており現在履修中。なお、コースは選択コースで複数選択可能であり、サイバーセキュリティコースは全て必修科目のため卒業人数がコース選択人数。

資料5 2023年度入学者等の状況に基づき今年度の入学者、退学者の状況について報告された

今年度の入学者数は48名。定員80名に対して定員超過率0.6%。昨年まではほぼ定員を満たしており在学者は250名。定員充足すると320名のため70名のショート。

退学者の状況は令和4年度16名、退学率7.23%。(全国:大学の退学率3~4%)主な退学理由は精神的理由(メンタル)によるものであり、16名の退学者のうち8名を占めている。

(2) 令和5年度の臨地実務実習について

事務局淡路より、資料6に基づき2023年度情報学部実習先一覧について報告された

実習先企業は臨地実務実習I・II併せて45社(うち県外企業3割)。臨地実務実習I57名、臨地実務実習II66名が履修予定。今年度の特徴として、

行政（佐渡市、新潟市、五泉市）との連携が増えていることやこれまで実習先は Web系企業がほとんどだったが製造業（ナカノアイシステム、フジイコーポレーション等）

が増えてきたことから就職先についても幅広い選択肢から選べるようになると考える

(3) 令和5年度の就職状況について

事務局淡路より、資料7に基づき就職内々定状況が報告された

今年度求職者数61名、内々定者58名（未内定3名：実家通勤希望2名（茨木・沖縄）、留学生1名（中国出身））。うちIT企業内々定者は55名。約半数が県内企業

4年生在籍70名のうち、求職希望のない学生は9名。（他大学に進学、フリーランス、体調不良：3名、休学等で卒業しない者：6名）

5) 情報学部カリキュラム改訂について

事務局淡路より、資料9 情報学部 教育課程の概要 新旧比較対照表に基づき報告された

旧カリキュラム 必修科目 114 単位+選択科目 67 単位

→新カリキュラム 必修科目 92 単位+選択科目 90 単位

選択科目を増やすことで自分の得意な分野の勉強ができ、能力を伸ばすことができる

6) その他（質疑応答等）

●箕打委員：

・今年度入学者が減った理由は何ですか？子供の数が減っているとか？

→今年度新設の情報系大学が開学し選択肢が増えたことやコロナの状況が回復したことにより、新潟よりも東京にでていく学生が増えたためだと考えられる（淡路）

・学生が口コミなどを参考に就職先を決めることもあるようだ

●中野委員：

・メンタルで退学する人の理由は？サークルは抑止力にならないのか？

→やる気十分で4月に入学するものの、前期は「理論中心」の授業のため前期過ぎると「勉強についていけない」となる。サークルは一部の学生しか入っておらず、活動もサークルによってまちまちなので抑止力にはなっていない（淡路）

・専門家からみると一般大学に比べて実習は圧倒的に専門職大学が強いと思う。

今年度の就職を振り返っての座談会などやってみるのはどうか？

→前向きに検討させていただきたい（淡路）

・キャリアセンターの運営について

→専任職員が学生対応（個別面談）や合同企業説明会のアレンジをしている。センター長は教授。学生たちはネット等（求人NABI）をみても多すぎてどのような企業なのか区別がつかないため合同説明会や臨地実務実習で判断している（淡路）

※次回（第2回）協議会 2024年3月22日（金）14:00～16:00 米山キャンパス 予定

以上